

緩和医療

（生老病死を慈しむ）

第30回

日本緩和医療学会学術大会

The 30th Congress of the Japanese Society for Palliative Medicine

第2次参加登録期間

2025年5月20日（火）～6月20日（金）

大会長 田村 恵子 大阪歯科大学 教授

会期 2025年7月4日（金）～5日（土）

会場 福岡国際会議場・マリンメッセA館／B館



特定非営利活動法人
日本緩和医療学会
Japanese Society for Palliative Medicine

運営事務局

（株）JTBコミュニケーションデザイン

E-mail: jspm30@jtbcom.co.jp website | <https://jspm30.org>



30周年特別企画シンポジウム

歴代の理事長をお招きしての記念シンポジウム

基調講演

人間の本质としての「弱さ」について

演者：宮坂 道夫 新潟大学大学院 保健学研究科

死を前にする人、その人を前にしてケアをしようとする人。この二者の間には、「超えられない壁」、「埋められない距離」があるのかもしれませんが、誠実なケア者は懸命に「共感」しようとします。そこで鍵になるもの、二者の間で共有できるものが、人間としての「弱さ」なのかもしれません。最近様々な分野で「弱さvulnerability」という概念が注目されています。講演では、「弱さ」という不思議なものについて、様々な角度から考えます。



特別講演

ケアの炎をまきちらせ

演者：栗原 康 東北芸術工科大学 芸術学部 文芸学科

一八五四年、クリミア戦争。その野戦病院で、ナイチンゲールがまさきに行ったのは看取りであり、死にゆく兵士たちの精神的、肉体的苦痛を取り除くことでした。どうしたらいいか。それを考えぬいた結果として、感染症予防対策もうまれてきます。本報告では、そんなナイチンゲールの看護思想の核心にあったものはなにか。「キリスト教神秘主義」「ケア」などをキーワードにご紹介していきたいと思っています。



特別講演

豊かな最晩年をつくる－超高齢者の緩和ケア－

演者：桑田 美代子 医療法人社団慶成会 看護介護開発室／青梅慶友病院 看護部

人生100年時代と言われるようになりました。皆さんは90歳・100歳になった自分を想像したことがありますか。認知症になった自分を想像したことはありますか。そして、老いて介護が必要になった自分を想像したことがあるでしょうか。緩和ケアは、悪性疾患だけが対象ではなく、超高齢者・認知症にも必要なケアです。超高齢多死社会を迎えている我が国だからこそ、これまでの活動を通し、超高齢者の緩和ケアについてお話ししたいと考えています。



特別講演

ケアが成就する身体 ～自他が揺らぐことを肯定する

演者：中村 佑子 (株)テレビマンユニオン、立教大学

精神的に不安定な母に付き添う “ヤングケアラー” の経験から、私はケア的な身体とは、「私が誰だかわからなくなる」、自他の境界線が揺らぐ主体であることを発見しました。ケアをうまく成就できる「私」は、あらかじめ固まることを禁じられ、環境によって変化する可塑性をもっています。そうした「自他の流動性」は通常否定的に捉えられますが、ケアの深奥にある創造性に可能性を見出すというお話をしたいと思います。



特別講演

緩和ケアにおける研究と臨床は同じことである

演者：森田 達也 聖隷三方原病院 緩和和支持治療科

緩和ケアにおける研究について依頼をいただいた。最近、研究について話してくれる依頼は多い。ところが、筆者の場合、特段「立派な研究しよう!」と思って研究を始めたわけではなく、臨床していて切羽詰まった「よく分かんないなあ」「もっといい方法ないかなあ」が起点となっており、研究と臨床は一体である。筆者がたどってきた経緯を振り返りながら、研究と臨床は同じことだと感じられる話をしたい。



特別教育講演

緩和ケアはどこまで標準化できるのか

演者：田代 志門 東北大学大学院 文学研究科 社会学専攻分野

この四半世紀の日本の緩和ケアの歴史を振り返ると、そこで起きた大きな変化は「標準化」にあるのではないのでしょうか。診療ガイドラインの作成、様々な尺度やクリニカルパスの開発、さらにそれらを全国に普及させていく取り組みは、それ以前の緩和ケアのあり方を大きく変えていきました。この講演ではその過程を改めて振り返りながら、標準化とその先にある「標準化しえないもの」の意味について社会学の視点から考えてみたいと思います。



海外招聘講演

Compassion 360 : Living an Integrated Life

演者：Koshin Paley Ellison NYZC Co-Founder, President, & Guiding Teacher



大会長企画シンポジウム

大会長企画シンポジウム

多職種で考えるスピリチュアルケア

座長：松原 貴子 三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター

坂井さゆり 新潟大学大学院 保健学研究科

演者：岡本 慎晃 公立大学法人敦賀市立看護大学 薬理学

金田 諦晃 東北大学病院 緩和医療科

栗原 幸江 上智大学グリーフケア研究所/認定NPO 法人マギーズ東京/駒込病院緩和ケア科

田尻 寿子 県立静岡がんセンター リハビリテーション室

老いに沿うコミュニケーション

座長：蓮尾 英明 関西医科大学 心療内科学講座

白井 由紀 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻
先端中核看護科学講座 緩和ケア看護学分野

演者：小川 朝生 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科

西山みどり 有馬温泉病院 看護部

村瀬 孝生 宅老所よりあい 統括所長